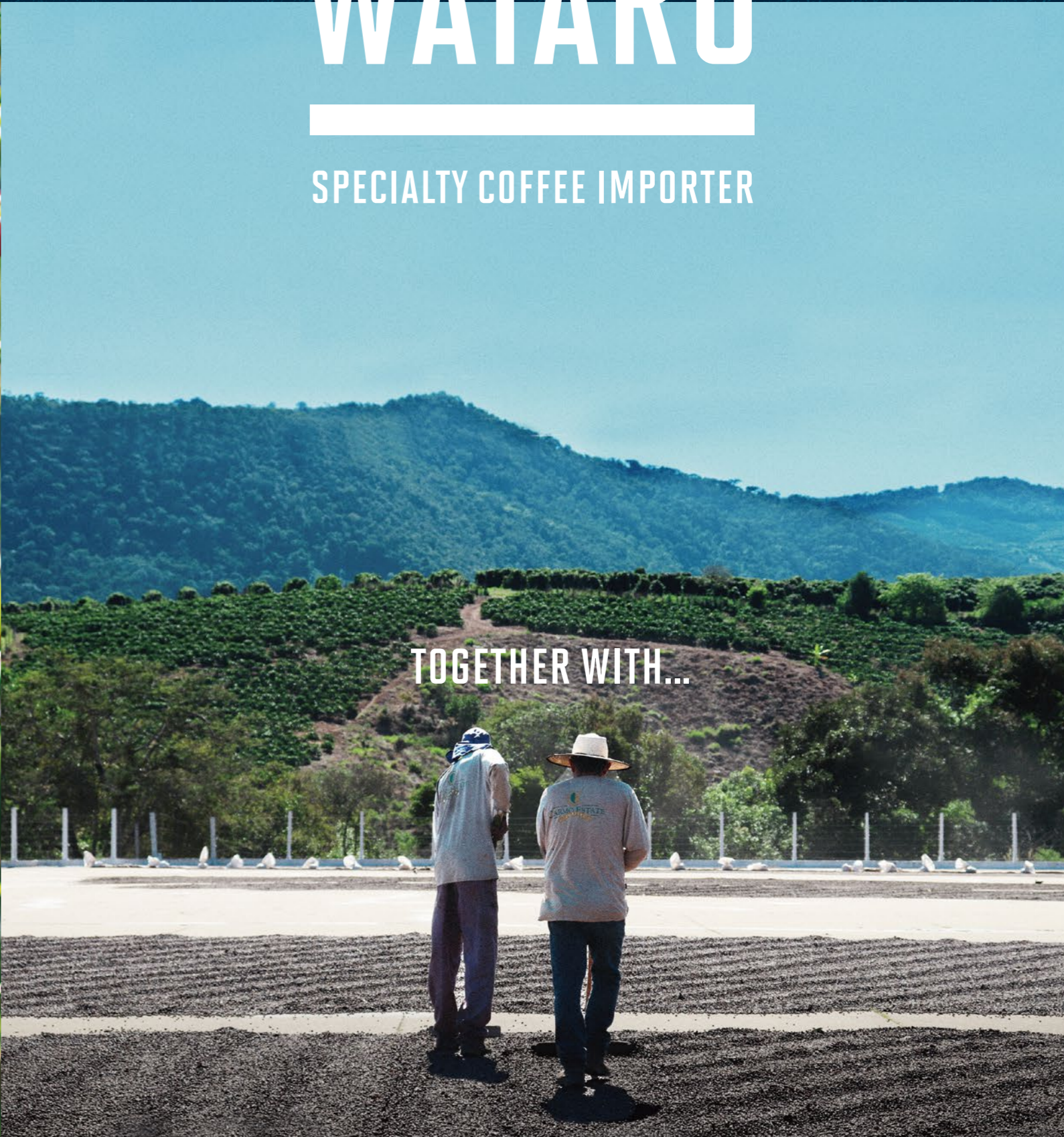


WATARU

SPECIALTY COFFEE IMPORTER

TOGETHER WITH...



ワタル株式会社

本社 〒105-0003 東京都港区西新橋2丁目11番9号 ワタルビル5F TEL 03-3503-8351 FAX 03-3503-3994
名古屋支店 〒453-0834 名古屋市中村区豊国通3丁目18番 榎木ビル1F TEL 052-419-6518 FAX 052-419-6519
大阪支店 〒530-0055 大阪市北区野崎町9番13号 梅田扇町通ビル3F TEL 06-6312-4371 FAX 06-6311-6668





WATARU INFORMATION

Our Story

創業者である西林亘(ニシバヤシワタル)は、戦後1947年に外地から復員。荒廃した焼け跡を歩いていたところ、一つの人だかりを目にします。そこにあったのは、黒く焙煎されたコーヒー豆。米軍から渡ったこのコーヒー豆に魅了される多くの人々を目の当たりにした西林亘は、日本人のコーヒー好きをすぐに予感。コーヒー業を天命と定め、コーヒー生豆を仕入れ、商売を始めました。その後、日本国内の喫茶や外食、グルメ嗜好といった食文化の変遷とともにコーヒー文化の発展に寄与、世界中の素晴らしい風味を持ったコーヒーを探し求めてきました。

2000年に入ると、品質回帰や生産国の経済問題に目が向けられ、品質に

よる付加価値向上を目指したスペシャルティコーヒーが台頭。ワタルはいち早く産地に赴き、直輸入を開始しました。そして、各国の生産者と日本の消費者を繋ぐ架け橋として、全国のロースターの皆様と共にコーヒーの新たな文化を牽引してきました。

長期に亘るコーヒー生産者との交流は、農園や生活環境・社会の向上に繋がり、更なる品質の向上や持続可能なコーヒー生産を実現します。そして、彼らが生産した素晴らしいコーヒーは、多くの人々を魅了してやみません。ワタルはこれからも、スペシャルティコーヒーのリーディングカンパニーとして、感動を与え、価値のある素晴らしいコーヒーを提供してまいります。

History

- 1947年11月 西林商店創業
- 1953年11月 株式会社に改組
- 1967年12月 社名を株式会社ワタル商會に変更名古屋支店開設
- 1971年5月 大阪支店開設
- 1973年2月 社名をワタル株式会社に變更
- 1981年10月 ジャマイカコーヒー輸入協議会設立及びに加入
- 2000年10月 SCAA米国スペシャルティコーヒー協会(現SCA)に加入
- 2002年2月 株式会社ビーエスアイを子会社化
- 2002年10月 FLO(国際フェアトレードラベル機構)に輸入者登録
- 2004年6月 グアテマラを拠点に駐在員の派遣を開始(2022年現在コスタリカ駐在)
- 2012年9月 ACE(Alliance for Coffee Excellence)よりCOEへの功績を表彰
- 2020年 コスタリカCasa de la Alegria基金への参加開始

Performance [実績]



スペシャルティコーヒーインターネットオークション
輸入量世界累計第1位

※ 2001年～2021年Cup of Excellenceを運営するACEより、
2012年に世界TOPの功績が認められ表彰をされました。



オークションコーヒー落札総額20年間日本1位
落札金額・落札重量累計日本1位
30%以上の国内シェア

※ 2001年～2021年

Together With...

「Together With...」という言葉は、元々は2014年のSCAJ展示会のコンセプトとして掲げたワタルのテーマです。それ以来、このテーマはワタルのコーヒーへの思いを象徴する重要な合言葉となっています。

私たちはコーヒーの生産者や輸出業者、自家焙煎ロースターの皆様、そしてコーヒーを日々飲んでくださっている人々、生産国の自然環境や社会、コミュニティー、文化、様々なものをTogether With...の先に思い浮かべます。

1杯のコーヒーには本当に多くの人々が関わり、コーヒー産業が成り立っています。わたしたちは、この「...」に込められた人々や場所、環境、そして想いを大切にすることをTogether Withという言葉に込めています。

近年、コーヒーを取り巻く環境は目まぐるしく変化していますが、この「...」はいつの時代も変わることなく、世界中の多くの人たちがコーヒーという飲み物に魅了され、コーヒーの文化を支えています。

そんな人々を繋げる架け橋になれるように、多くの人と手を取り合って、コーヒーを育む社会や自然環境とも共生をしながら、私たちはコーヒーを提供したいと考えます。

OEM Business



当社では、コーヒー生豆の供給だけでなく、お客様の焙煎されたコーヒー豆をお預かりし、ドリップユニットや水出しコーヒーパックなどの受託製造(OEM)を行っております。風味の変化を最小限に留め、コーヒーの鮮度を保持できるように、残留酸素濃度1%の厳しい基準を設け包装。また、小ロットでの製造も承っております。

OUR WORK



01 | カッピング

カッピングスキルの向上は業務のベースとして欠かせません。生産国から送られてくる様々なサンプルや、船積み前のサンプルなどのカップクオリティを評価項目ごとに細かく品質チェックをしております。

02 | 生産者プレゼンテーション

日本の成熟したスペシャルティコーヒーマーケットは、他国に比較しても品質に対して造詣が深い市場であるとみなされ、毎年数多くの生産者が来日しています。弊社も積極的に生産者セミナーを開催する事で、彼らの理念や発想・技術、その年の品質に関する生産現場の生の声をお届けしています。

03 | 産地訪問

類いまれな風味特性を持ったコーヒーを探し出すためには生産国への訪問は欠かすことができません。中米・南米・アフリカ・アジア...世界中の産地に直接足を運ぶことで、素晴らしいコーヒー、そして素晴らしい生産者との出会いが生まれます。生産地を訪問し、カッピングをしていく中で、時には思いもよらない素晴らしいコーヒーとの出会いが待っていることもあります。

04 | 買付ロットカッピングプレゼンテーション

ワタルには季節ごとに世界各国から素晴らしいスペシャルティコーヒーが到着しています。多くのロースター・自家焙煎店様へ旬のコーヒーをお届けできるように定期的にカッピングプレゼンテーションを開催しております。

05 | 駐在員の派遣

素晴らしい品質のコーヒーを安定的に供給するために、また日々変化する生産地の情報をお伝えできるように、中米コスタリカに駐在員を派遣しています。駐在員だからこそ可能な商品開発や生産者との親密なコミュニケーション、そして生産地での心強いアテンドで我々をサポートしています。

06 | 審査会への参加

Cup of Excellenceに代表されるような各生産国の審査会に審査員として参加をしています。数多くの生産者にスポットライトが当たる事を願いながら、真摯にカッピングを通して品質に向き合っています。そして、審査会で得た生産国の毎年の動向や素晴らしい生産者との出会いを、国内のセミナーや日々の買い付けに活かしています。

07 | ロースティング

スペシャルティコーヒーを正しく理解するには焙煎の技術も重要です。ワタルでは多様な生産処理方法、品種、生産国、様々な農園の環境で生産された多種多様なコーヒーを焙煎し、カッピングを繰り返しながら、品質確認に最適なロースティングを実践しています。

01 FAIRTRADE

地域社会や環境を守り、
サステナブルな生活の実現を目指す



フェアトレードとは、開発途上国の生産者や労働者と適正な価格で公平な取引を行うことにより、彼らの生活改善と自立を目指す貿易のしくみです。生産国では小規模であるがゆえに資金不足や技術不足など様々な問題を抱えている農家が少なくありません。フェアトレードは、こうした個々の小規模農家がまとまり協働し、良質なコーヒーを生産することで正当な対価を得て自立した生活を送る事を応援する取り組みです。

認証を受けた生産者と輸入業者は、「経済的基準」「社会的基準」「環境的基準」3つの「国際フェアトレード基準」に適用される基準を守り生産や取引を行う事が定められています。最大の特徴は、生産コストをまかない、かつ経済的・社会的・環境的に持続可能な生産と生活を支える「フェアトレード最低価格」と生産地域の社会発展のための資金「フェアトレード・プレミアム」を生産者に保証している点です。

ワタルはコーヒーを生業とする企業として生産者や労働者の生活改善とコーヒー産業を未来へ残す一助となるべく2003年より「グアテマラ・ウエウエテナンゴ」「エチオピア・イルガチエフェ」の2つのオリジンでフェアトレードコーヒーの扱いをスタートしました。



生産者はフェアトレードコーヒーの取り組みを通じ生産技術を学び生産性をあげ、品質を向上させるよう努めています。そして、フェアトレードで得た利益は、設備投資、農具の貸与、オーガニックプログラムの実践や土壌保全への投資、生産者の家の改修、などに役立てられている他、学校や診療所など公共施設の建設をはじめとする地域の発展のためにも有効に使用されています。

2003年当時、まだ小さかった農家の子供たちも今では成人し、コーヒー農家を継いで私達にコーヒーを届けてくれています。みなさまの小さな農家を応援する気持ちは、生産国の地域社会や環境を守り、サステナブルな生活の実現を可能にします。

02 Casa de la Alegria Costa Rica



コーヒー農園従事者、
ピッカーの子供たちへの教育支援を

2020年よりコスタリカの輸出会社Coffee Experts社を介して、生豆買付け金額の一部をCasas de La Alegria基金に寄付する取り組みを始めました。Casa de la Alegriaはコーヒー農園で働く季節労働者やピッカーの子供たちに対して、教育や健康支援・学童保育などを目的とした託児所を作るプログラムです。

2014年よりICAFFE(コスタリカコーヒー協会)とユニセフが主導で開始され、現在タラス、コトブルス、グレスシアの3つの地域に21棟の託児所・学童を整備しています。34の農家がプロジェクトに賛同し、両親が農園で働いている間、子供たちはこの託児所で最大で週6日、1日4食の食事と学習を受ける事ができ、健康診断など健康面でのサポートも行われています。2019年は0歳から12歳まで732人の子供たちがこの施設を利用し、2022年までに更に1000人の子供を受け入れる事を目標としています。

こうした子供たちの受け皿がある事で、季節労働者の雇用環境や生活面の改善・サポートに繋がりたいと考えており、子供たちの健康と成長、児童労働の



防止や育児放棄といった社会的な問題にも目を向けています。農園に従事する労働者の雇用環境を改善する事で、持続可能なコーヒー生産の実現と品質の向上に繋がっていきたくと語っています。

2020年には直接Casa de la Alegriaを訪問。タラスに設立された託児所では、ピッカー、労働者のお子さんたち36人がこの施設を利用していました。訪れたタラスの託児所では、今後校庭を作ったり、キッチンも用意できるようにする計画で、手の洗い方を教えたり、塗り絵をしたり、子供たちの生活と成長をサポートしていました。政府の機関、保健所も定期的に立ち寄り、必要な設備が整っているか安全面の確認も進められています。

コーヒー生産の環境改善や将来を担う子供たちのサポートの為に、永続的に取り組んでいきたいと考えています。



03 El Injerto

地域社会を変える持続可能な
コーヒー農園を目指して

El Injerto農園が脚光を浴びたのは2002年。当時2回目の開催となったグアテマラカップオブエクセレンスがきっかけでした。この年、アギーレファミリーから2つの農園が受賞。受賞品の内のひとつEl Injerto 2を落札した事をきっかけにアギーレ氏とワタルの関係が始まりました。そして、同年秋には農園を訪れ、彼らの真摯さと品質に対するこだわり、管理レベルに魅了されました。

1800年代後半に小麦やサトウキビを栽培する農園としてエル・インヘルト農園は始まりました。現在は4代目のアルトゥーロ、そして息子のユーヨが中心となり、雇用や環境を重視しながらコーヒー生産を行っています。持続可能な



コーヒー生産において、スタッフの住環境や社会保障、賃金、研修を重視し、労働者が安心できる労働環境を目指しています。また近年の気候変動がこれ以上進むことなくコーヒー生産が続けられるように、廃棄物を無くし、森林も保全しながら環境保護を訴えています。また、狩猟も禁じて生物の多様性を守っています。

持続可能なコーヒー生産に対してアギーレ氏は次のように語ります。
『将来に亘ってコーヒー生産が持続可能なものとするために、政府の政策により一層の安全性が担保され、コーヒー生産の労働条件が改善される事を強く望みます。加えて多くの人々が気候変動への意識を強く持ち、環境負荷を軽減し、コーヒー生産が続けられる事を願っています。コーヒー産業における持続可能な取り組みには、消費国の皆さんの理解がとて大切です。美味しいコーヒーに対して公正な対価を支払う事を厭わない、そんな世の中になる事を願っています。これからもよろしくお願いいたします。』

環境社会への取り組み

04 Donas do Café Project Brazil



女性生産者を支援し
未来を照らすプロジェクト

コーヒー産業に携わる女性たちの生活に変化を齎そうという強い意志のもと、長年ブラジルのスペシャルティコーヒー市場をけん引してきたSMC社とブラジルの大手農協であるCooxupéが中心となり「Donas do Café」プロジェクトを立ち上げました。これは、両社の組合員やパートナーに市場の情報提供や技術的トレーニング、カップングを通じた品質評価、そして農園の管理方法などのノウハウを提供し、時には農技師を派遣しフォローアップしながら女性生産者に対してプロフェッショナルとしての成長を促すとともに、スペシャルティコーヒー市場についての知識を深めてもらうという取り組みです。



SMC社のマネージャーを務めるマリア・ディルセア・メンデス女史やBSCA(ブラジルスペシャルティコーヒー協会)の会長も務めCaxambu農園のオーナーで大学の教授でもあったカルメン・ルチア・チャベス・デ・プリト女史ら、ブラジルのコーヒー産業を支えてきた女性リーダーたちが先頭に立ち、自身の経験を伝え、コーヒー産業に関わる多くの女性がキャリアを形成できるように懸命に活動を行っています。

ここ数年、コーヒー業界における女性の活躍は目覚ましく、彼女たちが生産するコーヒーへの需要も国内外で同じように高まっています。Donas do Caféプロジェクトは、彼女たちのスペシャルティコーヒー市場への参入を後押しし、強いパートナーシップを構築しながら、女性生産者の成長と活動を支えていこうとしています。Donas do Caféのブランドを通して、強い意志を以て未来を見据える女性生産者を紹介し、活躍できる市場を作り出そうとしています。ワタルはこの活動を支持するパートナーとして、Donas do Caféを通じた素晴らしいコーヒーを紹介すると共に、コーヒー産業における女性の活躍と成長を応援しています。



Specialty Coffee Project



01 Santuario Project



飽くなき探求心、その先へ

サントゥアリオ・プロジェクトは、コロンビアにサントゥアリオ農園を構えるカミーロ・メリサルデ氏による高品質なコーヒー生産を目指す国境を越えたプロジェクトです。希少な品種、独自の生産処理理論によるプロセスの構築、これらの組み合わせにより生まれるユニークな風味特性を有するコーヒー生産が特徴です。

カミーロ氏は1999年よりサントゥアリオ農園を運営していましたが、2010年バジェ・デル・カウカ県カリにてサントゥアリオ・プロジェクトの前身となるインマクラダ・プロジェクトのメンバーとなり新プロジェクトを始動。インマクラダ農園・モンセラ農園・ラス・ヌベス農園の3つの農園を立ち上げ、標高1700m~2000mの急斜面で、ゲイシャ、ラウリナ、スーダングルメ、ユージェニオイデスなど希少な品種の生産と多様な生産処理の検証を行いました。この時、カーボニックマセレーションを導入し優れたカップクオリティーのコーヒーを作り上げた事は大きな話題となりました。

2014年、カミーロ氏はブラジルCarmoCoffeesのルイス・パウロ氏の手掛けるNew Flavors Projectの一員となり、マーケットトレンドの先取りをコンセプトとした「ブラジルサントゥアリオ・スル農園」をスタートさせました。農園には伝統的にブラジルで栽培されているイエローブルボンに加え30種類を超える品種、シェードプランテーションなど差別化された栽培方法、革新的なプロセス、二人のこれまで培ってきたコーヒー生産のノウハウを投じスペシャルティコーヒーに専業する先駆的な農園となりました。

2017年には、ルイス・パウロ氏の他、以前より交流があった同じ志を持つコロンビア、コスタリカ、メキシコの生産者、サポートチームと共に「サントゥアリオ・プロジェクト」を発足。合同会社を設立し農園へのアドバイスやサポート、ロジスティクスやファイナンシャルもスムーズに行える体制を整え、消費国にシームレスにサービス提供できる体制を整えました。

各プロジェクトを継承する希少品種の生産、新しいプロセスの実践と検証を重ね、ユニークでエキゾチックな風味特性を有したコーヒーを各地から世界に送りだしています。メキシコ、コスタリカでは、ウェットミル、ドライミル、ラボセンターを建設。彼らの飽くなき探求心はとどまる事を知らず挑戦は今も続いています。



02 Emblematic Coffee (Costa Rica)



“らしさ”を表現 生産者の想いを伝えるProject

同じ気候の1年は存在せず、毎年異なる気候条件の下でコーヒーの生産は行われています。その年に敬意を払い、その年に合った生産やプロセスを施すことが生産者の技術であり、大切な事だと教わりました。

スペックや品種の希少性のみで囚われることなく、生産者が持てる技術を投じて自信を持って作ったコーヒーだからこそ、お互いの成長と良好な信頼関係が育まれると我々は信じています。

Emblematic Coffee of Costa Ricaは、こうした信頼関係の原点に立ち返り、生産者・ミル・気候と生育条件、そして土壌のキャラクターそれぞれの“らしさ”を表現し、生産者自身が自分たちの顔だと象徴するコーヒー(Emblematic Coffee)を伝えたいと立ち上げたプロジェクトです。

生産者にとっても本当に特別な、そして彼らの想いの伝わるコーヒーをお届けします。



03 Exotic Varieties Project (Colombia)



付加価値を高め、生産者の成長を願うProject

このプロジェクトを立ち上げたコロンビアの輸出業者であるBanexport社は、コーヒー産業にイノベーションを起こしたいと生産者の支援と技術・品質向上に長年取り組んでおり、試験農園では数多くの生産処理や品種の研究をしてきました。こうした流れを汲んで、カップクオリティが良く、付加価値の高いコーヒーの生産を手助けしようと始まったのがこのエキゾチックバラエティプロジェクトです。

このプロジェクトは、収穫までの3年間のサポートや買付価格におけるプレミアム保証を約束しています。現在コロンビア全土では、約7割がカチモール系品種とも言われる中、生産性の高い品種を植える事からカップ評価の高い品種を生産する事にシフトしてほしいと願い、苗木の提供から始まり、苗木同士の植樹間隔や、土壌の管理など細やかな技術的サポートが行われています。

生産者にとって高品質なコーヒーの生産には、第一に資金繰りが大きなハードルとなり、更に投資した成果を上げる生産技術が重要です。品質やカップクオリティ、またそれに伴う対価だけでなく、次世代へ向けた新たな品種への取り組みは生産者にとっての大きなモチベーションに繋がり、希望を与えるプロジェクトとして芽吹いており、小規模な生産者が生産したゲイシャ種やピンクブルボン種は大きなインパクトを齎しています。

SUSTAINABILITY

コーヒーを愛する人たちと、いつまでも いつまでも共に在りたい
私たちにとってサスティナブルは、とても有機的で希望に溢れた言葉です

水平線の遥か彼方

風に揺らぐ深い緑 太陽の眩い光 恵みをもたらすスコール
唯一無二のマイクロクライメットが、そこに根付くコーヒーにいろどりを与え
唯一無二の素晴らしいカップクオリティを創造します

我々のパートナーであるコーヒー生産者たちは

自然と共生し、敬意を表しながら

毎日懸命に素晴らしいコーヒーを追い求めています

テロワールや生産者の息吹が醸し出す素晴らしいコーヒーたち

みなさんがいつでも素晴らしいコーヒーを手にとれるよう

また、生産者やその家族、コミュニティ、そして自然環境を

いつもまでも守っていただけるように

私たちは、誰かの笑顔や感動を思い浮かべながら

サスティナブルな未来を実現します

